

【議事録】 要点筆記

会議名	エリアマネジメント専門分科会第6回			会場	芦屋町役場 オンライン開催	
日時	令和4年1月13日（木） 9：30～10：30					
件名・議題	1 開会 2 議事 （1）外部人材の登用状況について （2）既存上屋利活用 公募型サウンディング調査結果について （3）観光動向調査 アンケート調査結果について （4）全天候型施設の配置及び港湾エリア全体での動線等について 3 その他					
委員の出欠	会長	内田 晃	出		宗 重成	代
	副会長	志賀 勉	出		橋本 誠也	出
		大方 優子	出			
事務局等の出席	【事務局】 ・ 芦屋町 芦屋港活性化推進室 ・ 芦屋町 産業観光課 商工観光係 【事務局支援】 株式会社オリエンタルコンサルタンツ九州支社					
合意・決定事項	○マネージャー人材の登用については、企業からの派遣のみではなく、個人を対象とした一般公募を並行して行う。 ○既存上屋の利活用として、民設民営での参入意向がなかったことから、今後の事業展開を検討していく。 ○アンケート調査結果から、観光動向や観光集客機能に対する意向などが把握でき、全天候型施設の活用は砂像が最も効果が高いとの意見集約を確認。 ○アンケート調査結果から、サイクル機能の導入が望ましいとの意見集約を確認。 ○全天候型施設の配置及び港湾エリア全体での動線等については、芦屋港利用者の安全性確保を最重要として、課題を共有し、次回以降引き続き検討を行う。					

エリアマネジメント専門分科会（令和４年１月１３日開催分）議事録

１ 開会

■事務局より出席者（５名、うち代理出席１名）について報告。

２ 議事

（１）外部人材の登用状況について

■資料１にて、地域活性化起業人の公募及び企業との対話状況を報告。求めるスキルが高く、企業派遣のみでは限界もあるため、個人を対象とした一般公募を並行して行う旨報告。【事務局】

○企業からの人材派遣における現状はよく理解できた。個人を対象とした一般公募を行う方向ですすめていくことでよいのではないか。【委員】

○企業との相談において、マネージャー人材は求められるスキルが高く派遣は難しいとの話があった中で、一般公募で応募がないとは考えられないのか。【委員】

⇒企業との相談の中で、マネージャー人材は企業に属していないフリーランスの方が、逆にチャレンジしやすいのではないかと意見もあった。求めるスキルが高いため公募がない可能性もあるが、様々な可能性を求め選択肢を増やしていきたい。また、外部人材の登用状況は、今後も引き続き分科会で進捗状況等を報告していく。【事務局】

○企業からの派遣については、マネージャー人材だけでなく、リーダー人材についても、すすめていくという理解でよいのか。【会長】

⇒企業との対話は引き続き行いながら、マネージャー人材だけでなく、リーダー人材についても企業からの話があれば対応していきたい。【事務局】

○外部人材の登用状況については、適宜、分科会等で報告してもらいたい。【会長】

（２）既存上屋利活用 公募型サウンディング調査結果について

■資料２にて、公募型サウンディングを実施し、参加事業者（３社）との対話の結果を整理した。これによりPFI方式のメリットが低く、整備方法については検討が必要な事を説明。【事務局】

○１号上屋の利活用については、公募型サウンディング調査の結果から、民設民営は難しい部分があると感じた。一方で、民間事業者の管理運営の意向が聞けたことは成果であるため、この成果をもとに今後の検討をすすめていければよい。【委員】

○１号上屋の利活用については、今後、福岡県と芦屋町での協議が必要になるので、両者で協力して事業をすすめてもらいたい。【委員】

○公募型サウンディング調査の結果を踏まえ、１号上屋の躯体工事に関する整備方法や施設の解体も含めた活用の方法について整理し、次回の分科会で提示したい。【事務局】

○民間事業者の意向が聞けたことは収穫で、今後の事業をすすめるうえで、まずは1歩前進と言える。ただし、民設民営での参入意向がなかったことから、躯体部分の修繕費用面を誰がどのように担っていくのが課題となる。本議事は公募型サウンディング調査の結果であるので、他に質問等がなければ、次にすすめる。【会長】

(3) 観光動向調査 アンケート調査結果について

■資料3にて、観光動向調査に関する分析結果（一部速報値）を説明。また、本調査において、観光動向の実態と傾向や、観光集客機能に対する砂像の認知度や意向が課題解決に最も効果的であること、サイクル機能に対するニーズやポテンシャルが十分にあることを報告のうえ、導入機能について意見を求めたい旨を説明。【事務局】

○まず、観光動向や観光集客機能に対する内容について委員からの意見を伺いたい。【会長】

○芦屋町内の周遊が少ない点が大きな課題で、周遊を促すためにも拠点となるような集客機能が芦屋港周辺には求められることを改めて認識できた。また、周遊を促す際に、町内だけでは限界があるため、近隣の地域と連携して、全天候型施設を観光商品に組み入れるなど、どのような位置づけにするのが大切になる。【委員】

○今回の結果概要は全体での数値であり、アンケート調査した場所ごとに分析できていない。来訪場所ごとで来訪目的が異なるように、消費額や居住地など、さらに分析できるのではないかと想定できる。できれば、来訪場所ごとの詳細な結果を教えてもらいたい。今後の検討をすすめる際のよいバックデータになる。【委員】

⇒次回の分科会で来訪場所ごとの詳細な結果を提示する。【事務局】

○どのような顧客が、どのような思考や感情で、どのように行動（購買）をしていくのか（購買までのプロセスなど）が分かると今後の検討につながる。町内の各施設を周遊させるためにも、詳細な分析による検討をしてもらいたい。【委員】

○アンケート調査のサンプル数が多く、町内来訪者の声を直接聞くことができ、観光動向や観光集客機能に対する意向などが把握できたことは、非常に良かった点である。また、全天候型施設活用方法を「砂像」を基本にする中で、砂像の認知度が高く、屋内砂像展示施設に対して高い来訪意向が確認でき、さらに遠方からの来訪が期待できることがわったことは、一定の根拠となり得たのではないかと考える。一方、アンケート調査結果から分かった観光動向の課題に対してどのように取り組んでいくのか、来訪者の町内周遊をどのように促すのか、遠方からの来訪者をどのように呼び込むのか、町内の消費額をどのように増やしていくのか、など検討をすすめていくうえで、次回の分科会では、来訪場所ごとの詳細な結果を示してもらい、再度委員の意見を伺うこととするがよいか。【会長】

⇒特に問題はない。【全委員】

○次に、サイクル機能に対する内容について委員からの意見を伺いたい。【会長】

○サイクルステーション整備に対するニーズが高いことが分かったことは収穫である。サイクルステーションを整備するにあたっては、1つのサイクルコースだけではリピートに繋がりにくいため、他の地域と協力して豊富なサイクリスト向けメニューを提供する

ことが大切である。ONOMICHI U2 のような魅力的なサイクル施設を来訪目的としている事例もあるため、サイクルステーションを整備する際の参考にするといよい。【委員】

○遠賀宗像自転車道はサイクリングを始めようとする人も利用しやすいコースであるため、サイクリングのビギナーを呼び込む視点もサイクルステーションを整備するうえで大切である。【委員】

○自家用車で自転車を持参される方も多くいるということで、芦屋港がそのような方に利用されるような施設になるとよい。岡垣町に新たにサイクルステーションも整備されるなど、やはりサイクルステーションに対する高いニーズがあるため、相乗効果を高める意味でも芦屋港にサイクルステーションを整備していくべき。【委員】

○サイクルステーションに対する利用意向が高いことが確認でき、駐車場と併せて整備することで、より遠方のサイクリストの来訪が期待できる。一定の来訪も確認できていることから、サイクル機能の導入にむけて、今後検討をすすめていくこととしてよいか。

【会長】

⇒特に問題はない。【全委員】

(4) 全天候型施設の配置及び動線等について

■資料4にて、全天候型施設の配置及び港湾エリア全体の動線に対する課題等を説明。【事務局】

○芦屋港活性化基本計画に表記のある全天候型施設と緑地帯の間の道路は、現在どのような状況か教えてもらいたい。【委員】

⇒現在は、車両が通れるような状況にはない。この道路の整備については、整備主体や費用負担に関することと、福岡県や警察及び地元住民などとの調整に要する時間に関することと、大きく2つの課題があると考えている。【事務局】

⇒1号上屋と全天候型施設の間に押しボタン式の信号機の設置も考えられるが、関係機関との調整が必要になり、高いハードルも想定される。エリアマネジメント専門分科会では、芦屋港利用者の安全確保が最重要として検討していきたい。また、芦屋港活性化事業において、1号上屋と全天候型施設の間に道路があるというのは、芦屋港エリアの魅力を低下させる要因になり得る。歩行者の動線を優先的に考えると、車両については現在の主要道路ではなく、他の道路に迂回させるよう案内できるとよい。芦屋港周辺は大型車両も通行するため、動線を検討するうえで歩行者の安全性確保を念頭に今後検討していきたい。【会長】